

平成25年度事業報告

概 要

平成25年度事業は、昨年度に引き続き川崎市、横浜市、相模原市、神奈川県リハビリセンターの4か所において脊髄損傷者等及びそのご家族を対象にピアサポート相談会を実施いたしました。

平成20年度の事業計画で「神奈川県リハビリセンターにおけるピアサポートモデル事業として、グループ相談会やロールモデルの派遣、個別訪問のピアサポート活動などを、神奈川県支部のピアマネジャーや支部役員によって毎月一回定期的に実施して行く」として、神奈川県リハビリセンター側と何度も話し合いを持ちましたが、結局実現には至らなかった経緯があり、まずは県内4か所から広く相談を受け付けることになり、全脊連神奈川県支部の役割の一つであるピアサポート事業が、広く県内の一般の脊髄損傷者を対象に本格的に始まった2年目の取り組みとなりました。

もう一つの大きな支部の事業として、神奈川県内における「路線バスのバリアフリー調査研究事業」は、助成金事業として25年度から26年度と年度をまたぎ実施する運びとなりました。

移動制約者である車いす使用者の自立や社会参加と言う大きな課題の解決には、公共交通機関の施設や車両のバリアフリー化は最も重要な要素となり、その整備状況が私たちの生活に大きな影響を及ぼすことになることから、24年度に実施した、神奈川県立保健福祉大学非常勤講師の藤井直人先生講演の「交通バリアフリー化はどれだけ進んだか」を勉強したことを参考にしながら実施しています。県内の路線バスの調査を行うには、実際にバスに乗り込むことをはじめバス事業会社を訪問してアンケート調査を行い、その調査結果のバリアフリー化された路線バスの情報を車いす使用者に提供することが重要です。

また、その他支部が主催する催事や各協会が実施する催事は、会員やそのご家族にも気軽に参加できるようにご案内して順調におこなわれました。

1、～あなたの力になれます～

脊髄損傷者のための相談会の実施

～あなたの力になれます～『脊髄損傷者のための相談会』の開催は、永年に亘り脊髄損傷という重い障害と様々な困難を乗り越えてきた貴重な知識と豊富な経験を持つ当事者が、同じ脊髄損傷者等の精神的な支援と社会生活に必要なあらゆる情報を提供する相談会を実施し、脊髄損傷者が再び誇りある社会の一員として活躍できるよう支援して行くことを目的に事業を実施しました。

主 催 （社）全国脊髄損傷者連合会神奈川県支部

協 賛 一般社団法人 日本損害保険協会

（社）全国脊髄損傷者連合会

1、相談会開催期日及び会場

第1回 川崎市国際交流センター 第4・第5会議室

平成25年11月5日（土）13時30分?16時30分

第2回 相模原市けやき会館3階セミナールーム

平成25年11月16日（土）13時?16時30分

第3回 かながわ県民センター4階405号室

平成25年11月27日（水）12時?14時

第4回 神奈川県総合リハビリテーションセンター4階会議室

平成26年1月25日（土）10時?14時

2、個別相談者合計11名

第1回 相談者なし

第2回2名 Aさん（女）62歳 頸髄不全損傷

Bさん（男）36歳 障害者施設職員

第3回4名 Cさん（女）32歳 胸髄損傷及び全盲1級障害

Dさん・Eさん（男女）障害者施設職員

Fさん（男）入院中の女性腰髄損傷者の父親

第4回5名 Gさん（男）75歳 脊髄損傷

Hさん（男）65歳 腰髄損傷とその妻

Iさん（男）49歳 胸髄損傷とその妻

3、支部出席者 延べ22名うちボランティア11名

第1回6名 山崎昇、赤城、澤藤、北島、妻屋、田辺 ボラ4名

第2回5名 山崎昇、赤城、路川、山崎敏、妻屋、 ボラ1名

第3回4名 山崎昇、路川み、妻屋、小島 ボラ1名

第4回7名 山崎、赤城、路川、路川み、澤藤、妻屋、宝子山

ボラ3名、

4、個別相談会の内容

個別相談会を川崎市、横浜市、相模原市、神奈川リハセンター（厚木市）の4か所で実施し、男性6名、女性5名の合計11名の相談を受けた。又、相談を受ける支部役員は、延べ22名でボランティア11名であった。尚、川崎市で実施した相談会は来場者ゼロであった。

相談の内容はAさん（女）自転車の衝突事故で頸髄を損傷したが軽微な損傷となり、その補償がないなどの悩みに対する傾聴であった。

Bさん（男）障害者施設職員からは、入所中の脊髄損傷者の社会復帰についての相談であった。Cさん（女）は2回目の相談となり、全盲で脊髄損傷者の排泄問題の相談を同じく女性のピアマネが対応した。Dさん（男）の相談は30代の娘さんが脊髄損傷で入院中、今後の可能性や就職などについての相談。

E・Fさん（男・女）障害者施設職員から入所中の脊髄損傷者の社会復帰についての相談。Gさん（男）とその妻は、ご主人は労災の脊髄損傷で遺族年金の制度や手続きに対する相談。Hさん（男）75歳は自分の趣味やその普及などについての相談。Iさん（男）49歳とその妻から現在リハビリ中で今後の社会保障制度の利用や収入などについて子供連れでの相談であった。支部ではこれらについて適切に回答しアドバイスなどを行い、それぞれ納得していただいた。

5、実施に当たったの所感

ピアサポート事業は、今回で2年目の実施となったが、今後、支部の定例活動として継続していくには、更に相談者を増やすことが必要と考えている。それには相談会の開催回数を増やすことと、開催のための広報活動をもっと活発に広範囲に行っていくことが必要である。支部活動にはこのような課題があるが、脊髄損傷者とその家族を対象とする相談会を神奈川県内に定着させ、普及を促進することが私たち支部の為であり、県内の脊髄損傷者やそのご家族の為であると考えている。

2、平成24年度支部総会の開催

開催日 平成25年6月23日（日）
場 所 フォーラム246会議室
併 催 1、スポーツ吹き矢大会
2、懇親会

支部定例総会	出 席 者	14名
	委任状提出者	40名
	合 計	54名

「資格審査」

平成25年度4月1日現在の支部会員数は101名であり、会則第10条2項による総会成立の定足数は51名以上となり、今総会は成立しました。

（総会議事）

議長の選任を諮り、川崎協会の田辺昌美さんを選任し、議事の審議へと進めました。妻屋事務局長、町田財政部長より平成24年度事業と平成24年度決報告及び路川みどり会計監査の監査報告が行われました。

第1号議案 平成24年度事業報告

- (1) 脊髄損傷者のピアマネジャー現認研修会の開催報告
- (2) 平成24年度支部総会の開催報告
- (3) 定例役員会の開催 第217回から第222回までの6回
- (4) 支部会報「やわらぎ」の発行 第91号92号の2回発行
- (5) 支部忘年会の開催報告
- (6) 共同募金活動への参加 相模原駅前、厚木駅前、横浜駅西口の3か所
- (7) 第10回全国総会富山県大会出席
- (8) 平成25年度第2回臨時総会出席 東京都スポーツセンター
- (9) 関東ブロック会議千葉県大会出席 山崎支部長はじめ4名が出席
- (10) 協会活動報告 川崎、横浜、県央の各協会報告
- (11) その他の活動報告 県内の各関係機関への参加活動報告

第2号議案 平成24年度決算報告及び監査報告

- (1) 貸借対照表
- (2) 収支決算書
- (3) 平成24年度監査報告書
- (4) 付属 地区協会決算報告書

以上、平成24年度事業報告、平成24年度決算報告及び監査報告を一括審議の結果全会一致で承認されました。

また、第3号議案の平成25年度活動方針及び、川崎、横浜、厚木、相模原市の4か所の公共施設においてピアサポート相談会の開催などの事業計画および第4号議案の平成25年度予算案は支部提案通り全会一致で承認されました。

(1)「スポーツ吹き矢大会」の開催

平成25年度支部総会に併せて開催された恒例のスポーツ吹き矢大会は14名が参加して競技が行われ、それぞれ豪華賞品獲得を目指しました。

スポーツ吹き矢は、とくに上肢に障害のある方でも、吹き矢の筒を支える台を利用することでハンディを感じることなく互角に競技できるので、参加者全員が楽しめる競技でした。

(2)懇親会の開催

支部の懇親会は、会員をはじめそのご家族や友人も参加して相互の親睦を深める目ことを目的に支部総会時に毎年開催しております。

今回も合わせて16名が参加してカラオケやビンゴゲーム、料理を楽しみながら歓談しました。

3、定例役員会の開催

神奈川県支部を運営して35年目を迎えた平成25年度も定例役員会は順調に2か月に1回の割合で計6回開催しました。

役員会には、支部役員が毎回出席して支部活動に関する報告や企画、催事の開催と調整などについて協議を行うなど、支部の運営はすべてこの役員会の合議を経て維持されています。

役 員 会	開 催 日	開 催 会 場
第217回	平成25年4月21日	相模原市「けやき会館」
第218回	平成25年6月23日	伊勢原市「フォーラム246」
第219回	平成25年8月17日	相模原市「けやき会館」
第220回	平成25年11月2日	相模原市「けやき会館」
第221回	平成25年12月21日	伊勢原市「フォーラム246」
第222回	平成26年2月1日	相模原市「けやき会館」

4、支部会報「やわらぎ」の発行

平成25年度「やわらぎ」の発行は、第91号と92号の2回発行になりました。

第92号では、県央協会が主催した東京スカイツリーの見学についてや神

奈川県支部総会、全国総会富山県大会についてと一昨年暮れに行ったセミナー「交通バリアフリー化はどれだけ進んだか」について等を掲載しました。

* やわらぎ第91号（総会議案書）……………平成25年6月6日発行

* やわらぎ第92号…………… 平成25年12月12日発行

5、 共同募金活動に参加

赤い羽根の共同募金は、民間社会福祉事業やボランティア・市民活動をはじめとする地域での支え合い活動を支援する資金となるとともに募金活動を通して市民に助け合いの心を普及する大きな意義を持っていると言われています。支部では、毎年この活動に参加しています。

昨年度は、10月1日に横浜駅西口で妻屋他1名が参加。厚木駅前では路川副支部長他が参加。相模原では毎年の市役所前が台風の影響で中止になり、その代り年末助け合いとして12月3日に相模原駅前で赤城副支部長が参加しました。

6、 全国総会富山県大会出席

全脊連の第12回全国総会は、6月7日から3日までの日程で砺波ロイヤルホテルにおいて開催され、全国から34支部が出席しました。

支部から、山崎昇、妻屋、路川、赤城が出席しましたが、全員本部役員になっているため、支部からの出席は無しということになり、委任状の提出になりました。

総会は、24年度事業報告、決算報告、監査報告、25年度事業計画および予算案、公益法人への移行申請を目指すための進め方についてなどの審議が行われすべて何とか可決されました。その後大会スローガンの採択と次期全国総会を神奈川県で開催することを決め全国総会は終了しました。

7、 第36回関東ブロック会議千葉県大会出席

関東地区の東京都、神奈川県、千葉県、群馬県、栃木県、埼玉県、長野県、茨城県、山梨県の各支部が一同に会して、障害者福祉制度やバリアフリー環境の問題点等について意見交換と情報交換と親睦を兼ねて毎年持ち回りで開催しています。

千葉県大会は、10月20日、ホテルポートプラザ千葉で開催され支部から山崎支部長、路川、妻屋、澤藤と付き添い2名を入れて6名が出席しました。

講演は「確認しておきたい食事の基本」ということで、講師の首都大学

准教授の稲山貴代氏から、押さえておきたい食事のマナーのポイント等のお話があった。

また、平成26年度のブロック会議は神奈川県支部の順番ですが、神奈川県が全国総会を引き受けるために、群馬県支部の主催で開催されることが決まりました。

8、脊損のピアマネジャー現認研修会に出席

開催日 平成25年12月8日（日）

会場 群馬県 サンピア高崎

主催 （社）全国脊髄損傷者連合会 関東ブロック会

主管 （社）全国脊髄損傷者連合会茨城県支部

支部出席者 妻屋事務局長と付き添い2名の参加

プログラム

1、演習 ケースは2例でグループ分けして行いました。

日本損害保険協会助成事業として全脊連が全国規模で毎年開催している関東ブロックでの脊損のピアマネジャー現認研修会は、言うまでもなくピアサポート活動を行う上で、必要な技術と資質の向上を目的としていますが、各支部での活動がもっと普及されることが大切であり、研修会の内容をさらに改善する必要があると思われます。

9、バスのバリアフリー調査

川崎市の東急バスと市営バスの営業所に行き、バス停の時刻表に車いす対応の表示があるか、それはワンステップバスかノンステップバスかなど調査しました。

10、障害者用自動車の無料点検サービスの実施

手動装置の付いた障害者用自動車は、移動制約者である私たちの行動範囲を無限に広げてくれます。しかし、装置の点検をはじめオイル交換やタイヤ周りなど自動車自体の点検は、安全運転をするうえで不可欠となります。支部では神奈川県のある人の移動を支援する目的で、JAF神奈川県支部と（株）ニッシン自動車工業の協力による無料で行う点検サービスを毎年1回神奈川リハビリテーション病院の駐車場をお借りして実施しています。

昨年度は、当日ちょうど台風と重なり中止となりました。

11、各協会報告

25年度は、川崎、県央の各協会がそれぞれ催事を開催し、会員の皆様にご案内し参加者を募りました。

{1} 川崎協会

「楽しいスマートフォン教室」

開催日 平成13年11月17日(日)、11月24日(日)

会場 川崎市国際交流センター

講師 三島 将生氏 (KDDI 携帯電話アドバイザー)

参加者 33名

懇親会 19名

{2} 県央協会

東京スカイツリー観光

開催日 10月14日(月・祭)

参加者 27名

リフト付きバスでカナリハ駐車場から出発し、お台場にあるグランパシフィックホテルで昼食はイタリア料理を楽しみ、そのあとフジテレビを見学に行く人有り、ショッピングをする人有り、観覧車に乗る人有りと、思い思いに楽しんだ後、夕方からスカイツリーに向かいました。当日はお天気に恵まれ展望台は混雑していましたが、素晴らしい夜景を堪能することができ参加者は大満足で家路に着きました。

12、その他の活動

1、妻屋事務局長は2月18日「障害者差別解消法」のシンポジウムにパネラーとして出席しました。

2、赤城副支部長は、神奈川県福祉サービス運営適正化委員会委員として、5月24日適正化委員会に出席しました。

3、路川副支部長は、神奈川県社会参加促進センターの委員として毎月の会議に出席しました。

4、昨年来、神奈川リハビリテーション病院において、退職等で内科医師が不足する事態が発生し、神奈川リハに通っている人にとっては内科医がいけないのは大問題なので、支部として病院側と交渉してきました。その結果26年3月病院長より回答があり、26年4月よりの体制として、常勤の内科医(総合内科・循環器内科・腎臓内科)各1名ずつの3名と、非常勤医師の3名を確保したという連絡がありほっとしたところです。